

科目名	国際看護活動論 Global Nursing		担当教員 (研究室番号)	清水 真由美 (408)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	mayumi.shimizu@mcn.ac.jp					
履修年次	4年次 後期	科目 区分	総合科目		選択 区分	選択	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	国際保健・看護活動の実際とその展開手法を学び、国際保健・看護協力に貢献できる能力を養う。											
ディプロマ・ ホルダー (DP)	主要なDP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
	関連する DP	C その時代の社会情勢や、人々の健康に関する課題に沿った看護のニーズを意欲的に探究する姿勢を身につけている。(興味・関心・意欲)										
		F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。(技能・表現)										
到達 目標	1. 国際保健・看護協力の現状を学び、その課題について考察することができる。 2. 国際保健・看護活動の展開手法を理解し、実践できる。											
成績評価方法 (基準)	レポート(60%)、授業参加態度(40%)											
再試験の有無と 基準等	当初評価で合格点数に満たない場合には、追加レポートにより再評価を行う。ただし、追加レポートは60点満点とし、当初評価の点数は加味しない。											
教科書	使用しない。											
参考書等	中田豊一：対話型ファシリテーションの手ほどき(国際協力から日々の日常生活まで、人間関係をより良いものにするための方法論、ムラのミライ(2016)。その他適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待	国際保健・看護協力を展開する上で用いられる手法の基本を学び、実際に活用を試みます。これらの手法は、国際協力から国内における活動、そして日々の日常生活まで、さまざまな組織や現場で適用することができます。											
備考												
回	学習項目				学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	コースオリエンテーション 国際開発協力の在り方				授業の目的や進め方を知る。 シュミレーションを通じて、援助について考える。				清水	講義/ 演習		
2回	国際開発協力の在り方				シュミレーションを通じて、援助について考える。				清水	講義/ 演習		
3回	国際開発協力において使われる手法 I				対話型ファシリテーション(「なぜ?」と聞かない質問術)の手法を学ぶ。(応用編)				学外 協力者	講義/ 演習		
4回	国際開発協力において使われる手法 II				ファシリテーションの基本的な手法を学ぶ。				清水	講義/ 演習		
5回	国際開発協力において使われる手法 III				開発援助で使われているアプローチについて学ぶ。 開発途上国における健康課題の原因を分析する。				清水	講義/ 演習		
6回	国際開発協力において使われる手法 IV				開発途上国における健康課題の分析に基づいて、対策を考える。				清水	講義/ 演習		
7回	ジレンマとその対応				災害対応カードゲーム「クロスロード」を通して、ジレンマ場面で必要となるさまざまな対応について考える。				清水	講義/ 演習		
8回	異文化理解と多文化共生				自分の中の文化的視点に気付き、異文化理解と多文化共生について考える。				清水	講義/ 演習		

学 習 課 題

--

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員は、看護職として国際協力の実務経験がある。国際保健・看護の教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。
